

前文

- 大局的な観点から、生物多様性で何をめざすのか、というビジョンを示す
- 日本の文明は自然と共生してきたことにふれる
- 生物資源を正當に評価することの必要性にふれる
- 生物多様性という視点から、パラダイムシフトが起ころうとしている
- 生物多様性に取り組むことで、持続可能な市民社会を実現する
- 生物多様なごや戦略の目的は、そうしたビジョンを実現すること

- ・ 生物多様性の問題は、文明史的な闘争（安田）第1回
- ・ 生物多様性は市場原理の原則に乗りにくい、極めて重要な問題（安田）第1回
- ・ 生物多様性はいろいろな立場を考慮することが必要（下田）第1回

第1章 生物多様なごや戦略とは

- なごや戦略策定の背景や、その役割、方針、考え方などについて説明

(1) なごや戦略を策定した動機

- 都市が生物多様性に取り組む意義について説明
- なごやのまちづくりは転換点を迎えている
- 第3次国家戦略や生物多様性基本法などの外部的な要因
- 名古屋市としての決意：戦略を通じてなごやを変える

- ・ 生物多様性の保全の必要性を理解してもらう必要がある (芹沢) 第1回
- ・ 無関心層にどうやってすそ野を広げていくかが課題 (香坂) 第1回
- ・ なごや戦略が環境価値合意のよりどころ (下田) ヒアリング
- ・ 戦略の理由：産業構造の転換への対応への言及が必要 (向井) ヒアリング
- ・ 趣旨が受身的 (土屋) ヒアリング

(2) 都市としてのなごやにおける戦略の方針

- 策定会議の2つの会議としみんプロジェクトという市民参加により、戦略を策定
- 「身近な自然の保全・再生」「生活スタイルの転換」の2本柱について確認する
- いきものへの畏怖と尊敬→生物の生息の場の保全→「身近な自然の保全・再生」
- いきものへの感謝→持続可能な消費→「生活スタイルの転換」
- 2本の柱が、戦略の目標にどうつながるかをみせる

- ・ 市民参加型で戦略を決めていくことが大事 (広田) 第1回
- ・ なごや戦略における市民とのコミュニケーションの図り方の検討が必要 (香坂) 第1回
- ・ しみん検討会議との関係の記載が必要 (土屋) 第1回
- ・ 名古屋市及びその周辺地域の生物多様性に触れることも重要(矢部) 第1回
- ・ なごや戦略を暮らしとの関係まで視野を広げることが必要 (千頭) 第1回
- ・ なごや戦略でできることとできないことの明確化が必要 (芹沢) 第1回
- ・ 市の過去の開発計画などの整理が必要 (土屋) 第1回
- ・ 土地利用のあり方に踏み込むべき (千頭) 第1回

(3) なごや戦略の活用

- なごやが生物多様性に配慮したまちに変わるためのツール
- 短期的な打ち出し方や、長期的視野に立った活用方法

- ・ 生物多様なごや戦略とは何かについての共通認識を持つ必要 (千頭) 第1回
- ・ なごや戦略を使いやすいツールに提案したい (新海) 第1回
- ・ 地域特性にあったものとする (安田) ヒアリング
- ・ 戦略のすがたをオーダーメイド型とする (向井) ヒアリング
- ・ オーダーメイド型戦略が魅力的 (下田) ヒアリング
- ・ オーダーメイドとする (土屋) ヒアリング

第2章 なごやの自然はどう変化してきたか<歴史編>

- 地史的、歴史的にみる名古屋圏の形成過程と生物多様性の関わり

(1) 地球の営みとなごやのいきもの

- 濃尾平野の成立など、なごやのいきものを支える地理的条件について整理

なごやと伊勢湾流域の地史

- なごやと周伊勢湾地域の、地形や気候条件とその特徴を整理
- 地形・地質、海進・海退、沖積平野の形成など

地理から見る伊勢湾流域の生物相

- 気候帯やバイオーム、東海要素群など、この地域の生物相について整理

(2) 人の営みとなごやのいきもの

- 都市としてのなごやが成立する過程での、人の営みと生物多様性との関係性の変化について整理

- ・ 地名を切り口にした環境の変遷の検討を提案 (千頭) 第1回
- ・ 生物の専門家と古文書の専門家との協力で、まだ埋もれているおもしろいデータも発掘可能 (下田) 第1回
- ・ 中津川の古文書を見ると名古屋は周辺地域と流域で共存共栄していた (内木) ヒアリング
- ・ 名古屋市史の活用、土地利用等の変遷の把握も必要 (海津) 第1回
- ・ 社会と経済の関連の議論が必要 (香坂) 第1回
- ・ 高度経済成長以前ぐらいの写真や絵図を集積・注目すべき (矢部) 第1回

なごやのあけぼの

- 自然の改変は数千年前から緩やかに進んできたことを説明
- ひとのくらしが、熱田台地か低地や山林へ拡大した

城下町なごやの成立

- 都市としてのなごやの基礎となった、城下町の成立過程と生物相の変化

なごやの原風景 (100 年前のなごや)

- 100 年前をなごやの原風景と仮定
- 古地図 (1891 年) に見る土地利用と植物相から、潜在的な生物多様性について整理

近代都市としてのなごや

- 20 世紀前半のなごやの変化について整理
- 市街地の拡大や、第一次里山再生運動、戦時中の薪炭材利用等によるはげ山化

(3) 20 世紀後半の急激な変化

- 近代 (最近 50 年) の変化について、プラス面、マイナス面について整理
- 環境意識の高まりなど、プラス面
- 緑被の減少や、水辺環境の変化、外来生物の増加など、マイナス面

第3章 私たちは、どんな生きものと共にくらしているのか<現状編>

- なごやの生物多様性について、その特徴について説明
- 世界も含めた広域的なつながりや、生物多様性とくらしとの関わりから、なごやといきものとの関わりを説明する

・ 2章の名古屋と生物多様性は最後でよい。参考資料のような扱いとする (向井) とアリンガ*

(1) 身近な隣人 - なごやのいきもの達

- ひとの暮らしの圧力にも負けず、生き抜いてきたなごやのいきもの(生態系)について説明

意外に豊かななごやの生物多様性

- 既存の調査データから見るなごやのいきもの達

なごやの生物多様性マップ

- 生態系を模式化した、なごやの生物多様性マップを提示
- なごやの生物多様性を俯瞰する

(2) つながるいのち、つながる地域

- なごやの自然とくらしは、世界や流域とどうつながっているのか

世界や日本の生物多様性とそのつながり

- 生態系を、大きなつながりとしてとらえる

つながりの中のなごや

- なごやの生物多様性の、世界などとのつながりについて、流域や里山、渡り鳥などを例に説明

(3) 暮らしの中の生物多様性の恵み

- ひとの暮らしが生物多様性に支えられていることを、「恵み」として説明

- ・ 検討事項で、生物多様性を守ることが人間にプラスになるかを検討すべき (安田)
- ・ 第1回エコロジカルフットプリントの活用したい (新海) 第1回
- ・ 人間との関係や経済の視点からの生物多様性が必要 (向井) 第1回

農畜産資源と生物多様性

- 肉や野菜としての生物多様性

水産資源と生物多様性

- 魚としての生物多様性

森林資源と生物多様性

- 材木としての生物多様性

文化と生物多様性

- 地域の自然環境が、伝統文化を形成してきたことの説明
- 「いやし」など、精神的な安定や充足感につながっていることの説明

- ・ 精神面への恩恵を考えることも大切 (広田) 第1回
- ・ 生物多様性が重要な理由：心身共に健全な生活を送ることへ貢献 (下田) 第1回
- ・ なごや戦略では文化との関係も大切 (香坂) 第1回
- ・ 市民の心理面(心の豊かさ、慈しみの心の熟成) 自然を通したコミュニケーション向上、都市価値の向上(資産価値)、気候緩和の観点を追加すべき (土屋) ヒアリング